

北部ブロック

(小松・木戸・和邇・小野学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 拠点施設としての学校の存在と地域発展との関わりの視点
- 教育環境を踏まえ、生徒数のバランスを見据えた学校の検討
- 地域拠点としての市民センター等の活用と利便性の確保
- 公共施設の将来配置の見直しと防災拠点としてのニーズの付加

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
学校再編	人口減少	・学校が無くなると更なる人口減少を招く
	学区再編	・生徒数のバランスを基にした、ブロックエリアにとらわれない学区見直し
	学校統合	・地域の特性と通学距離に配慮
地域拠点	機能集約	・市民センターなど市民が集まりやすい場所に機能集約
交通	駐車場	・公共施設には駐車場が必要
	交通確保	・車に乗れない人の交通手段確保
防災	避難所	・学校、体育館を避難所として確保しておく
	拠点	・市民センターを防災拠点に

■配慮事項

- ・学校が無くなった場合には地域においてさらなる人口減少を招くことを懸念している。
- ・統廃合を検討する際には、北部と南部の地域特性や生徒の通学距離に配慮しながら、生徒数の地域バランスに配慮した検討が必要となる。
- ・運転できない人の交通手段も確保することが重要である。
- ・サービスや地域拠点を踏まえた施設の検討が必要である。
- ・体育館や市民センターなど避難所や防災拠点としての視点を踏まえる必要がある。

■ 現況図を基に、議論された検討要素視点

● 地域毎の主な検討

- ・ 小松学区における、市民センターと小学校の配置を踏まえた機能の拠点化
- ・ 幼稚園・保育園一体の大規模施設の検討
- ・ 木戸市民センターを中心とした機能の検討
- ・ 北部ブロックの一拠点として和邇地域の考え方
- ・ 教育環境を踏まえた小野小学校から見た学校の考え方の議論

● 類似機能の施設集約化

西北部ブロック

(葛川・伊香立・真野・真野北・堅田・仰木・仰木の里学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 地域の文化や特徴に基づく教育の多様性の堅持
 - ・人口の少ない地域と多い地域毎の特性を踏まえた検討
 - ・地域の特徴を活かす検討
 - ・学校と地域との関係性の議論
- 複合化における機能の定義と地域ごとの可能性
- 地域拠点としての考え方と建物の利活用
- 施設の集約と安全の確保の視点

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
学校再編	学校維持	・人口が少ないところほど学校は必要 ・単級は良さや欠点があるがそれを補う学校間交流も有効
	多様な機能	・地域の歴史、特徴、文化を活かした魅力有る学校づくり ・様々な人と出会うことで人間性が育成される
	統廃合	・市街地等人口が多いところはやりやすいが、少ないところはやりにくい ・遠方からの通学への配慮や安全確保が必要
有効活用、地域拠点	有効活用	・学校の空きスペースを開放する
	統廃合、集約	・統廃合について施設と機能の定義が必要 ・地域により出来るところと出来ないところがある
	民間活用	・民間を利用することも考えられる
料金	有料化・値上げ	・増税は反対、受益者負担は賛成

■配慮事項

- ・学校は、郷土愛を育むために必要で、地域で見守るなどの協力も必要である。
- ・単学級の良さを大事にした検討も必要である。
- ・地域の特徴や文化を活かして、学校や教育の多様性を踏まえた魅力づくりの視点が必要である。
- ・学校がなくなることと教育がなくなることが混同して考えないことが重要である。
- ・統合する場合は、遠方からの通学に対しての配慮や安全性の確保が必要である。
- ・学校の空き教室を土日だけでなく平日も開放するなど有効活用の視点が必要となる。また、不特定の人間が出入りすることへの防犯の視点が必要となる。
- ・建物をよりよく使うためには、民間活用の視点も必要となる。
- ・サービスを維持するための増税には反対である。
- ・施設が集約されると機能が無くなるイメージがあり、地域拠点としての統廃合や地域によりできる、できないがあることを意識する必要がある。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

- 地域の特徴を活かした地域毎の議論
 - 人口の少ない地域の検討
 - ・コミュニティが親密な葛川地域の検討
 - ・伊香立地域全体の検討

 - 人口の多い地域（市街地）の検討
 - ・真野、真野北地域の検討
 - ・堅田市民センターを中心とした堅田地域の検討
 - ・仰木、仰木の里、仰木の里東エリアでの検討

- 老朽化、建替え時期に合わせ、分散した施設の一体化複合化

- 集約エリアの議論

- 学校の地域毎の役割分担の議論
 - ・自然豊かな学校
 - ・効率的な運営が可能な地域
 - ・地域性に配慮した集約を検討する地域

中北部ブロック

(雄琴・日吉台・坂本・下阪本・唐崎学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 機能充実と使いやすさの追求
 - ・土日の活用（開館時間）／運営
 - ・ソフト面での機能充実
- みんなが集まれる広域複合拠点施設の配置要望
- 集約、複合化による交通、セキュリティの確保の視点

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
教育環境	学校づくり	・保護者と地域で学校をつくる
	通学	・通学は安全や時間、経費の問題があるため、近くがよい
	複合化	・小・中・幼など目的で機能を集める
	安全性	・学校の複合化はセキュリティ面が心配
施設配置	配置	・エリア別に集まる場所を揃え、目的によって配置を変える
	民間活用	・民間施設を活用して行政サービスを提供する
	機能	・公共施設に人を集め、儲ける努力が必要
	交通	・高齢者や子育て世代は、徒歩で利用できるほうがよい ・大勢が集まる場所は、駐車場が必要
観光	有効活用	・学校にある歴史的資料を活用した観光振興

■配慮事項

- ・通学距離が遠く、国道横断もあり危険であるため、通学路の安全性を考える必要がある。
- ・学校の複合化については、車の出入りや不特定多数の出入りがあること等へのセキュリティ面に配慮する必要がある。
- ・学校をはじめとして、地域の愛着を高める施設づくりの視点が必要。
- ・エリア別に集まれる場所として歩いて集まれる小さな場所やみんなが集まれる大きな場所など目的に応じた配置を考える。
- ・土日の利用や飲食など、利便性を高めるソフト面での改善等様々な検討を行う必要がある。
- ・歩いて集まる小さな場所は、お年寄りや子育て中の人、容易に集まれる視点が必要である。
- ・みんなが集まる大きな場所は、坂道や夜間利用が多いため、車利用を踏まえた視点が必要。
- ・教育や観光など機能やサービス面を踏まえた集約化、複合化を検討する。
- ・湖岸など地理的条件を活かした施設の検討が必要である。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

- ブロック内での人口の増減に差がある。

- 地域による課題の検討
 - ・雄琴地域
 - 交通網と配置の視点
 - ・日吉台地域
 - 人口減少への対応
 - ・坂本地域
 - 文化の発信の中心地、施設が集まっている。
 - ・下阪本地域
 - 人口増加地域
 - ・唐崎地域
 - 人口増加地域

- 拠点への集約と分散
 - ・目的別に集約の可能性

- 居住地域におけるサービスの選択
 - ・その場所に住むことは、何かを得ているが我慢することもある。
 - ・一人ひとりがそれを選び、全体のバランスが取れて成り立っている。
 - ・このような問題をすり合わせて、サービスのあり方を検討することが大切。

中部ブロック

(滋賀・山中比叡平・長等・逢坂・中央・藤尾学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 子どもたちのための教育環境を踏まえた、教育施設の検討
- 社会状況に応じた地域活動、コミュニティ活動の活性化
 - ・集まれる拠点
 - ・ニーズ、サービスの向上
 - ・交通など利便性
 - ・民間活用によるニーズ、コスト、活性化
- 安心安全、防災拠点の確保と施設の利活用
- 生活圈、文化圏に応じた検討

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
教育環境	現状維持	・1学区1学校制を守る。学校は家の近くがよい
	環境、区域	・小学校は中学校区に合わせ、3校から2校にする。学校選択性も必要 ・小学校区は広くなりすぎない方がよい
施設配置	分散配置	・集会所などコミュニティ活動の場は分散がよい
	複合化、集約化	・学校に公民館を複合化、セキュリティ対策も必要 ・駅周辺に施設を集約すると便利
幼稚園	集約	・予算を考慮すると集約もありえる
	通園	・園児だけでバス通園は難しい。交通費の補助等が必要
民間活用、負担	民間活用	・民間が施設を建設し、行政が利用する ・公民館を地域が管理し、飲食可とする
	負担	・受益者負担の公平性
広域連携	地域性	・藤尾は山科（京都）と近い

■配慮事項

- ・小学校は距離が大事であり、学校の選択性など教育環境などの視点が必要である。
- ・学校を統合し、学区が広くなりすぎると、放課後友達と遊びにくくなる。
- ・高齢化が進んでいることを踏まえ、地域活動、コミュニティの施設配置を考える必要がある。
- ・小学校の空き教室など施設の利活用の視点が必要である。
- ・防災上の観点から、市民センターと小学校の配置を考える必要がある。
- ・通園が遠くなった場合には、バスなどの交通手段の検討が必要である。
- ・ニーズやサービスの視点を踏まえ施設配置や集約の検討が必要。
- ・その際には、民間活用も踏まえた検討も有効である。
- ・複合化をする場合には、セキュリティの確保が必要である。
- ・サービスレベルを見極めた、受益者負担が必要である。
- ・公民館などでの飲食の問題を解決するため、管理運営などの検討が必要。
- ・特性や立地条件から他の地域と異なる視点での検討が必要な地域もある。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

●中心部と周辺地域との考え方の議論

- ・藤尾地域における京都との防災協定などの連携
- ・山中比叡平地域における考え方
- ・中心部における考え方
(長等・滋賀地域と逢坂・中央地域などの検討、考え方)

●施設を守ること、無くす事の議論

- ・2つの施設を合併する議論は難しい。
- ・3つの施設を2つにまとめるためには、利用範囲など柔軟に考える必要がある。

中南部ブロック

(平野・富士見・膳所・晴嵐学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 地域活動、コミュニティを踏まえた施設の現状から利用を検討
- 地域内にある広域施設の利活用
- 近隣民間施設の活用と利用料負担の視点
- 予約をはじめとした利便性の向上
- 教育環境の充実を踏まえた方策の検討

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
地域施設の状況	利用等の状況	・少人数の利用が多く、大人数の利用は少ない ・大きな音を出すと近隣から苦情がくるため対策が必要
	広域施設の利 用	・他に広域施設等があるが、利用目的が限られるため、使いづ らいが、使えば便利である
利用料金	受益者負担	・料金を払って民間施設も利用している。飲食も可能
利便性	施設利用	・作った時と今では状況変化しているため対応が必要 ・市の施設同士で予約方法等が異なり、不便である ・広域施設を地域にも使いやすくする
教育環境	複合化	・図書館、プール、体育館を教育ゾーンとしてまとめる ・幼稚園と小学校を複合化し、活性化したところがあると聞く
	環境	・小学校、中学校でメンバーが変わると、環境が変わることが ある

■配慮事項

- ・地域内には広域施設はあるが、一般開放されていないことから、時代の変化も踏まえた地域住民の利用方法の検討が必要である。
- ・広域施設を有効活用していくためには、施設管理者毎の縦割り行政について考える必要がある。
- ・地域施設の現状の問題として、飲食ができないことがあげられる。
- ・地域施設への主な交通手段は、徒歩と自転車以外に自動車などがあり、施設に応じて距離感が異なる。
- ・予約期間や予約方法が同じ大津市の公共施設でも施設管理者や担当が異なれば違っており、使いやすさ等を踏まえた利便性が必要となる。
- ・教育施設の複合化については、教育環境の充実を踏まえた検討が必要である。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

- 安全性、利便性を踏まえた複合化の視点
- 地域内にある広域施設も含めた将来の施設のあり方検討
- 地域内にある民間施設を踏まえた有効活用と公共施設のあり方
- 将来に向けた1学区1支所の検討
- 学区の形状や施設配置からの機能の検討
- 土地の有効活用からの検討

南部ブロック

(石山・南郷・田上・大石学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 地域交流など地域拠点としての学校の捉え方
 - ・地域交流と学校の捉え方
 - ・集約、複合化を踏まえた充実
 - ・子どもの安全性の視点
- 教育環境の充実
- 地域の発展を踏まえた検討
 - ・人口増加など地域発展させる努力
 - ・将来のサービス水準の検討
 - ・将来の人のための資産とコストの問題

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
小学校の統合	地域交流	・学校は、子どもと地域の交流の場、コミュニティの核である
	現状維持	・学校を残すため、他の地域からも通えるような発想も必要 ・学校は残し、他の施設でカバーするための検討をする
	統廃合	・遠距離通学になればスクールバスが必要 ・児童クラブと学校が遠いと安全性の問題もある ・3、4人になってから検討する。生徒数は気にしない
幼稚園の適正化	定員規模	・定員いっぱいであると教育環境が悪くなる。余裕があるほうがよい
	保育料	・少人数保育をするため、費用の増額は困る
	統合	・小学校との統合は、活動の目的の違いから騒音に配慮が必要
図書館	学校活用	・小学校の図書館を充実し、地域も利用する
地域の発展	地域発展	・他の地域から人を取り込めることが必要

■配慮事項

- ・小学校は、地域交流の場である。
- ・統合するには、遠距離通学のためにスクールバス等の交通手段が必要となる。
- ・統合した場合、児童クラブと小学校の距離など安全性の確保が必要となる。
- ・少人数保育を実現するには、費用と料金のバランスも大事である。
- ・活動目的や活動内容が異なる施設を統合する場合、騒音等への配慮が必要である。
- ・必要な施設を残すためには、その分を他の施設でカバーするなど公共施設全体から将来のサービスを見据えた検討が必要である。
- ・一つの施設を作るためにはお金がかかるため、地域の発展を見据え、将来の人のために良い物をつくる。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

- 施設の複合化の議論
 - ・近接施設の建て替え時における複合化の議論
 - ・重複機能施設を複合化

- 施設の集約と駐車場の確保をはじめとした土地の有効活用

- 地域の特徴を活かしたまちづくり、公共施設の考え方
 - ・観光、文化の発信地としての機能の検討（石山地域）
 - ・南部地域の拠点としての機能拡充（南郷地域）
 - ・福祉のまち（田上地域）
 - ・スポーツのまち（大石地域）

東部ブロック

(上田上・青山・瀬田・瀬田南・瀬田北・瀬田東学区)

地域ごとの視点・要素・配慮事項のまとめ

地域ごとの検討における意見の視点と要素、今後の取組の推進における配慮事項について、整理する。

■主な視点

- 地域における学校、幼稚園の存在
- 地域を発展させる視点
- 情をもって理を活かす
- 社会の変化に応じた対応
- 地域の特徴の違いを踏まえる、活かす

■主な意見の要素

分野・種類等	意見等の視点	視点ごとの主な意見、考えの要旨
学校、幼稚園	現状維持	・小学校はふるさと。単級は絆が強まる ・学校と幼稚園がなくなると地域の魅力がなくなる
有効活用、複合化	有効活用	・空き教室に子ども、老人の施設を複合化 ・大きな学校施設をつくり、空きが出れば柔軟に有効活用する
	魅力向上	・地域の協力を得て特色ある幼稚園づくりを行っている。
地域の発展	地域活性化	・住みよい町とするには、同じ学区は同じ学校へ通う ・公共施設は地域の特色を活かす配慮が必要である。
	行政の対応	・減らす話ばかりではなく、地域を発展させる努力も必要である。 ・車社会なので、道路をつくり、バスを通せば地域がよくなる。
	地域コミュニティ	・学校区の変更により、地域活動に悪影響
検討全般	検討理念	・「情」をもって「理」を活かす

■配慮事項

- ・学校は、地域住民のふるさとである。
- ・現在も単学級だが問題はなく、人数が多いと問題になる場合もありえる。
- ・空き教室には優先的に、市民センターや幼稚園、子どもとお年寄りが一緒に生活できるような社会の変化に対応した複合化が考えられる。
- ・統合する場合には、学校を優先的に考え大きな施設を作り、空きが出たときに他の用途を受け入れられるようにスケールメリットを活かした整備が必要である。
- ・地域から小学校と幼稚園がなくなると、地域の魅力がなくなる。
- ・市民センターには公民館機能があり、人が集まるために施設に見合った駐車場が必要である。
- ・人口増加に合わせた施設が必要であるが、学校区が乱れると地域コミュニティに悪影響が出る。
- ・人口増加に合わせた対応も必要で、住みよい町にするには、同じ地域は同じ学校へ通うことが必要である。

■現況図を基に、議論された検討要素視点

- 機能をまとめる。大きな施設に必要なサービスを集約する。
- 不要施設の議論
- 駐車場問題と公共施設のあり方の検討
- 人口増加による学校の学区編成の是正
- 国・県や大学との連携、民間移譲・民間活用の視点
- 上田上地域における公共施設の考え方